

令和7（2025）年度

運営に関する計画

令和7（2025）年 4月

大阪市立大宮小学校

大阪市立大宮小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(1) 学校の概要・地域・保護者の状況

本校は、これまでの教育振興基本計画に示されている「知・徳・体」に沿って、学力及び体力の向上、思いやりや志の醸成、健康な心身の育成を図ってきた。

平成29年度から令和5年度までの7年間は、国語科を令和6年度は算数科を研究教科として取り組み、基礎基本の学力定着、及び自己表現力・論理的思考力を高める教育活動を行ってきた。また、文化庁の派遣事業や、地域の方々など外部人材を活用した出前授業や伝統文化、自然との触れ合いなど、多様な体験活動を通して豊かな心を育んできた。

その結果、児童・保護者とともに本校の教育活動アンケートでは、教育活動の取り組みや成果に対する肯定的回答の割合が高くなり、学校選択制で、本校に入学する数も年々増加傾向にある。保護者は、概ね学校に協力的で、学校への信頼・期待も大きい。地域は、PTAと連携して子ども向けの行事を多く実施してきており、たいへん協力的である。

本校の強み・・・子どもは素直で、言われたことは比較的きちんとできる。保護者、地域は協力的で、外部講師も依頼すれば引き受けてくれる。

弱み・・・自分で考えて行動したり、粘り強く取り組むことを苦手としたりする子どもが多い。受け身の姿勢が見られる。

(2) 3つの「最重要目標」から見た現状と課題

① 「安全・安心な教育の推進」に関して

ア. 令和6度に本校が認知した“いじめ”的件数は92件。(令和5年度152件) それぞれ担任が、丁寧に聞き取りを行い、全件とも解消しているが継続支援・観察を行っている。

本校では、いじめに関する校内研修や児童理解研修会を実施するとともに、日常の言動観察、日記、いじめアンケート、教職員間の情報交換を密にとるなどして、サインを見逃さない取り組みを押し進めている。特に、いじめの未然防止に重点をおき、いじめを許さない意識、傍観者をつくらない、認め合う仲間づくりなど心の教育を推し進めてきた。

学年および生活指導部で、児童同士のトラブルなど早期発見に組織的に取り組み、令和6年度以前の“いじめ”関連の問題は全件解消している。しかし、いじめは「どこでも、誰でも、いつでも」おこるものであり、一層の指導・支援の積み重ねを図る必要がある。

・令和6年度、学力経年調査の質問紙調査(3~6年)や本校児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に最も肯定的な回答した児童はそれぞれ77.3%、85.5%。

イ. 「学校のきまり・規則を守っている」児童は約89%である。

児童の好ましくない言動には毅然とした態度で指導することを全教職員で共通理解するとともに、学習規律の確立に組織的に取り組んでいる。学級の荒れはない。ルールを守るという意識がより身に付けられるように全体指導、学級指導を徹底する。

・令和6年度学力経年調査の質問紙調査(3~6年)、本校児童アンケートで「学校のきまりを守っている」と肯定的に回答した児童はそれぞれ89.9%、87.3%

ウ. 令和6年度の長期欠席児童(30日以上)は22名である。

長期欠席児童22名の内17名が不登校である。不登校対応に当たっては、学校教育の意義・役割や働きかけや関わりを持つことの重要性などをふまえ、組織的な対応に努めてきた。さらに、心の居場所づくり、安心して通うことができるいじめや暴力を許さない学級づくり、体験活動など学ぶ意欲の充実、きめ細かい教科指導など、不登校とならないための魅力ある学校づくりと、教職員の資質向上や教員を支援する学校全体の指導体制の充実など、不登校児童生徒に対するきめ細かく柔軟な対応に努めている。

② 「未来を切り拓く学力・体力の向上」について

ア. 学力について、「全国学力・学習状況調査」においても「小学校学力経年調査」においても、全教科において、全国平均や大阪市平均を上回っている。

▼令和6年度 「全国学力・学習状況調査」結果

	国語			算数			理科		
	大宮小	全国	標準偏差	大宮小	全国	標準偏差	大宮小	全国	標準偏差
R5	77	67.2	2.4	72	62.5	3.0	—	—	—
R6	73	67.7	2.5	67	63.4	3.7	—	—	—

○令和5年度・6年度ともに、国語科、算数科どちらの教科においても、平均正答率は全国平均よりも上回っており、令和6年度においては、標準偏差値は前年度と比べ大きくなっている。

【標準偏差】データの平均値からのばらつきや散らばり具合を表すもの。データが散らばっているほど高い値になる。

▼令和6年度 小学校学力経年調査の結果

国語	3年	4年	5年	6年	社会	3年	4年	5年	6年
R5	76.8	75.5	79.8	71.5	R5	74.4	68.7	61.1	59.6
R6	68.4	68.4	80.7	75.6	R6	74.7	74.4	68.0	55.0
算数	3年	4年	5年	6年	理科	3年	4年	5年	6年
R5	85.2	83.7	71.3	81.8	R5	73.0	70.9	68.8	84.5
R6	81.3	81.7	73.0	77.8	R6	65.1	65.1	74.0	74.7
英語	3年	4年	5年	6年					
R5			83.9	89.6					
R6			85.9	84.1					

※英語は、5、6年生のみ実施

令和6年度の小学校学力経年調査では、いずれの学年も全教科本市平均を上回っている。各学年には、「市平均に対する総合正答率の割合が7割以下の児童が3~10%いる。「できない子はできるよう、できる子はもっとできるように」を基本方針に、学習内容が定着していない児童には基礎的・基本的内容がしっかりと身に付くように習熟度別授業をはじめ個別などの指導の工夫をするとともに、伸びる児童は一層伸ばすようとする。特に、高学年の学習指導は、専科指導、教科担当制を実施するなどし、さらなる授業改善を図る必要がある。

イ. 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答は78%である。(R6経年調査より)

3年 79.3% 4年 73.4% 5年 75.8% 6年 82.5%

各教科の学習や朝の学習タイムなどで「繰り返し行う学習形態に取り組む」ことで基礎・基本の力を一定レベルまで上げることができてきた。今後は、思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめ

ぎし、活用力もつけて、協働学習や主体的・対話的で深い学びを実現することを目指すとともに、その視点からの学習過程、及び授業の改善を図る必要がある。

ウ. 全国体力・運動能力運動習慣調査結果は、男子は長座体前屈以外は大阪市平均を下回ったが、女子は5種目大阪市平均を上回った。

男子は1種目（長座体前屈）、女子は5種目（握力・上体起こし・長座体前屈・50m走・立ち幅跳び）と体力合計点において大阪市平均を上回った。女子は、全国平均を上回る種目もあった。

「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に肯定的に答えた児童の割合は、男子が91.7%で大阪市平均より1.7%低く、女子が81.0%で大阪市平均より3.5%低かった。「1週間の総運動時間が60分未満の子ども」は、男子が11.1%で大阪市平均より0.1%多く、女子が13.5%で大阪市平均より6.5%少なかった。

男子は、運動に対して、否定的にとらえていたり、苦手意識があつたりするためか、積極的になれば、運動能力の平均値も低い値になっている。

▼令和6年度全国体力・運動能力運動習慣調査結果より（平均値）

5年生	握力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅と び	ソフトボール 投げ	体力合 計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
男子	14.53	17.28	35.77	34.34	41.53	9.90	138.11	17.22	46.76
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
女子	15.76	18.89	41.17	34.19	33.08	9.75	144.19	12.51	53.03

③「学びを支える教育環境の充実」について

- ア. ICTの活用については、導入時から教員研修を実施し、オンライン対応を早くから実施できた。一人一台PCの1学級当たりの活用状況は、令和5年度は4.8回であった。
- イ. 令和6年度の時間外累計平均労働時間は23時間10分（2月現在）であり、1か月45時間を超えない教員は、96.8%、1か月の時間外が45時間を超える月を1年間に6月までとする目標に対しては、97%の達成率であった。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を79%以上にする。(学力経年調査の質問紙調査(3~6年)において令和6年度77.3%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(令和6年度80.5%)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(令和6年度69.4%)
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。(令和6年度75.6%)
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を34%以上にする。(令和6年度32.7%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を68%以上にする。(令和6年度66.6%)

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(令和6年度26.8%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を97.5%以上にする。(令和6年度97%)
- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を28%以下にする。(令和6年度30.6%)

【その他】学校目標

- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を、98%以上にする。(令和6年度95.6%)
- 令和7年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますかの質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を5ポイント減少させる。(令和6年度 経年調査26.1% 学校アンケート32.8%)
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、規則正しい生活に関わる項目(早寝、早起き、朝ごはん、メディア)について最も肯定的な回答する児童(メディアにおいては時間)の割合を、4ポイント向上させる。(令和6年度早寝、早起き46.5%、朝ごはん83%、メディア2時間以上41.6%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 96%以上にする。(学力経年調査の質問紙調査（3～6年）において令和6年度 95.3%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。(令和6年度 80.5%)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(令和6年度 69.4%)
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。(令和6年度 75.6%)
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 34%以上にする。(令和6年度 32.7%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 68%以上にする。(令和6年度 66.6%)

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕(令和6年度 26.8%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 97.5%以上にする。(令和6年度 97%)
- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を 28%以下にする。(令和6年度 30.6%)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大宮小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
<p>【最重要項目 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答をする児童の割合を79%以上にする。(学力経年調査の質問紙調査(3~6年)において令和6年度77.3%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(令和6年度80.5%)</p> <p>●令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を、98%以上にする。(令和6年度95.6%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の生活指導連絡会(職員会議・生活指導部会)の中で情報共有を図り、いじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期対応をする。 ・「大宮小いじめ対策基本方針」に則り、全学級・全学年で、好ましい人間関係や信頼関係のある集団を育成するための活動を意図的、計画的、継続的に行う。問題等が生じた際には、教職員全体で共通理解に努めるとともに、解消に向けて、組織的に取り組む。 ・不登校児童においては、日ごろから家庭との連携を密にし、つながりをもち続けることができるようとする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査を年3回実施し、その結果「いじめられている」、「いじめた」と答えた児童等に聞き取りと対応を100%行っている。 ・不登校児童に対する学習保障を行い、週に1回以上家庭と連絡を取っている。 	
<p>取組内容② 【 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全安心ルール」とともに、大宮小学校のきまりについて教職員で共通理解し、児童の実態に基づいて、生活目標を設定し、学級・学校全体の場で指導する。日常的な指導と強調週間を設けて指導する。 ・生活目標は、月単位・隔週単位で設定する。また、児童の実態に基づいて、生活目標の設定、継続、変更等を行う。 	進捗状況

指標

- ・「廊下・階段安全歩行に関する強調週間」を年2回設定し、日常的・継続的に各学級で注意喚起を行っている。また、看護当番を中心に教職員で休み時間の見守りを行っている。
- ・児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合について、85%以上を維持している。

--

取組内容③ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・道徳の時間を要として、教育活動全体を通して自己肯定感を高めるような道徳教育に取り組む。
- ・人権が尊重される学習活動づくり、インクルーシブ教育、多文化共生教育について教職員が理解を深化する中で、多様な価値観や文化を背景にもつ子どもを含め、子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える集団づくりを実践する。
- ・外部講師の招聘、地域連携の取組や多様な体験学習などにより、児童の好奇心・探求心を高めるとともに、地元への愛着等を育てる。

進捗 状況

指標

- ・各学年で豊かな心の育成につながる実践や体験活動をそれぞれ年1回以上行われている。
- ・児童アンケート「学校が楽しい」の項目において、肯定的な評価をする児童の割合が92%以上である。（令和6年度 90%）

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析

--

次年度へ向けての改善点

--

年 度 目 標	達成 状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。	
○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。	
○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(令和6年度 69.4%)	
○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。(令和6年度 75.6%)	
○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を34%以上にする。(令和6年度 32.7%)	
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を68%以上にする。(令和6年度 66.6%)	
●令和7年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を5ポイント減少させる。(令和6年度 経年調査 26.1% 学校アンケート 32.8%)	
●令和7年度末の本校アンケート調査で、規則正しい生活に関わる項目（早寝、早起き、朝ごはん、メディア）について最も肯定的な回答する児童（メディアにおいては時間）の割合を、4ポイント向上させる。(令和6年度早寝、早起き 46.5%、朝ごはん 83%、メディア 2時間以上 41.6%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業はもとより普段の授業において、児童一人一人の能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎・基本の定着を図る学習や発展的な学習を行い、個々の力をそれぞれ伸ばす。 ・全学年で計画的にICTや思考ツールなどを活用して協働学習や、主体的・対話的で深い学びの成立をめざした授業実践を行う。 ・英語教育の強化を図るため、全学年、週2回、10分の「英語タイム」を設け、発音の練習や聞き取りの練習をするとともに、年間1回以上の英語集会、校内掲示等の英語表示、歌やCDの校内放送など、日常的に英語にふれ慣れ親しむ環境を充実させる。 ・家庭学習・自主学習の定着を図るために全校児童で取り組む。また、手本となるような自主学習ノートを月1回玄関や教室、廊下などに掲示したりコピーしたりして「家庭学習・自主学習の手引き」として活用する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・各学級において、学習理解が十分でない児童を担任・習熟度別担当等が指導する機会を週1回以上設けている(放課後学習サポート事業を除く)。 ・一人一台端末を活用した授業を各学年で年1回以上実施している。 ・各学年、週に2回（各10分）英語に親しむ活動を実施するなかで、発音の練習や聞き取 	

<p>りの練習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等で学んだことを生かし、教員全員が主体的、対話的で深い学びの成立をめざした授業（含む：「公開授業」）に取り組んでいる。 ・家庭学習・自主学習の定着や取組内容を広げるため、学期に1回低・中・高学年部会で情報交換を行っている。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりアクションプランに基づき、体力向上の取組を計画的に進め、全教職員で共通理解し取組を改善する。 ・外遊びや各種運動・スポーツへの勧奨、50m走、立ち幅跳びなどについて自己目標の設定、記録会等への参加、トップアスリートの招聘などを通して、体力向上と運動への意識を高める。 	進捗状況
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に運動に取り組むことができるよう学習カードを年1回活用する。 ・外遊びや体を動かすことの推奨を図るために、年2回以上の強化週間を行っている。 ・トップアスリートの招聘や運動能力サポート訪問を年に2回以上行っている。 	
<p>取組内容③ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣の確立を図るため、生活アンケートによる児童の健康に関する実態把握、毎月の欠席調査やけがの把握等から課題を分析し、対策を共通理解し共通実践する。 ・健康委員会の児童による定期的な呼びかけと担任による毎月の健康チェック（ハンカチ、ティッシュ、爪）などで意識づけをして、健康に過ごす基本的な生活習慣の定着を図る。 ・「早寝 早起き 朝ごはん」などの望ましい生活習慣や病気の予防等について、キッズチャレンジ週間を実施して啓発活動を行う。睡眠やメディアの使用時間の調査などを行い、生活リズムが崩れている児童には、保護者も交えて指導・助言し、生活を改善する。 ・メディアが与える影響について、児童、保護者に向け指導や研修を行い、啓発する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、キッズチャレンジのチェックカードを用いて、振り返りを行わせる機会を設けている。 ・健康な生活習慣の確立に向けた取り組みとして、学校保健委員会を年1回開催している。 ・メディアが与える影響について児童や保護者に向けの指導や研修会を年1回以上行っている。 	
<p>取組内容④ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する指導の全体計画」に基づき、各学年で食に関する指導を行い、給食指導ではICT教材を活用するなどして食の知識を深める。 ・給食委員会の児童を食育の発信源とし「食に関する行事」に取り組み学校全体の食意識を高める。 ・「しょくせいかつだより」を毎月1回発行したり、給食や食育の内容をホームページに掲載したりすることで、児童、保護者に啓発する。 	進捗状況

指標

- ・各学年、食に関する指導を年2回以上行っている。
- ・「食に関する行事」に年2回以上取り組んでいる。
- ・児童アンケート「栄養のバランスを考えて好き嫌いせず食べようとがんばっているか」で、肯定的回答の割合が80%以上になっている。

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度へ向けての改善点

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) (令和6年度26.8%)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を97.5%以上にする。(令和6年度97%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を28%以下にする。(令和6年度30.6%)</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、日常的に児童理解を深めるICTのツールを活用し、得られた情報を生かして児童一人ひとりに寄り添った支援の充実を目指す。 ・ICTに関する研修を行い、ICTを活用した授業づくり、機器の扱いの習熟及び実践事例の蓄積に努める。 ・ICTを活用するにあたり、基本的なルールを共通理解しておく。(人にカメラを向ける、不要なゲーム、運動場が使えるときの端末使用) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」「相談連絡機能」などのデータから児童の実態把握に努め、アラームがなった際はその日のうちに対応をしている。 ・ICTに関する校内研修会を年1回以上実施している。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生以上で教科担任制を進め、教材研究を深める時間を確保し、教員それぞれの専門性を高めるとともに、超過勤務時間の解消を図る。 ・若手教員の指導力向上を目指して、組織を生かした育成に取り組む。 ・週に1回は「ゆとりの日」を設定し、17時半には全員が退勤する。 ・会議や行事の精選、会議時間を短縮することで、児童と向き合う時間や教材研究の時間を確保する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修(含む:「メンター研修」)を年10回以上行っている。 ・年1回全員が公開授業を行い、授業について指導助言を受けている。 ・「ゆとりの日」には、17時半に全員が退勤している。 ・時間外勤務時間が、前年度同月より1ポイント以上減少している。 	

取組内容③ 【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・読み聞かせをしたり、関連図書を並べたりして、読書に興味をもたせるよう努める。最低低学年は月に3冊、高学年は月に1冊以上読むように指導する。
- ・読書習慣定着と読書量の増加を図るため、図書室及び読書活動における環境整備（図書室の配架の工夫など）を行い、読み聞かせやブックトーク、ベストリーダー表彰などの取り組みを通して貸出冊数を増加させる。

指標

- ・読書タイムや「読書ノート」等の取り組みを継続し、児童一人当たり年間低学年は最低36冊、高学年は12冊以上読んでいる。
- ・年度内の貸出総冊数が1万冊以上になっている。

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度へ向けての改善点